

サイの御教え 一九六四年カンナダ正月の御講話

サイの意志 サンカルパ

今日は三重に祝福されています。なぜなら、まず、今日は太陽暦を用いる者にとつての元日であり、第二に、今日はヴァサンタ ナヴァラートリー（春の九夜祭）の始まりであり、三番目に、今日は布林ダーヴァンに入った日でもあるからです。皆さんは今朝それ（布林ダーヴァンのアシラムの落成式）を見ましたね。さらに、カンナダの民衆にとつては、もう一つ喜ぶべき理由があります。というのは、ちょうど今、私たちは彼らの州に、我らがプラシャーンティ ヴィドワンマハーサバー（ヴェーダを復興するためのヴェーダ学者の会）を発足している最中であるからです。これほど吉祥な日に共に集い、ここにいる学僧ら^{バンデイト}が差し出す、知識と経験の賜物^{たまもの}である賢明な言葉を、その甘露^{アムリタ}の滴を、ハートに抱くことは、皆さん方一人ひとりの義務です。ただ聞くだけでなく、聞いたことを実行しよう^{バンデイト}と努めなさい。というのは、作物を実らせる

には、耕した土地に雨が降らなければならないからです。皆さんは雨水を集めて貯水池に溜め^た、適所に巡らせた堀を通して、水を渴望している田畑へと流さなくてはなりません。その水が全部ごみ溜めに流れたり、塩辛い海に流れていたりするのを許してはなりません。この学僧^{バンデイト}たちは古代の学識の宝庫であり、どんなことを話したとしても、それは一寸たりともインド正真の文化の道を外れることがないことを、私は皆さん方に保証します。

今日、ここに、マイソール（一九七三年以前のカルナータカ州の名称）の州財務大臣のジャツティ、マハーラーシユトラ州の州農務大臣のサワント、そしてラーマクリシユナ・ラーオをはじめとする下院議員と、国民の意思により選出された議員らが来ています。

ダシャラタ王はラーマチャンドラ（ラーマ王子の別名^{バンデイト}）に王位を継がせたいと欲した際、王宮の学僧らと

国民の代表者ら双方に意見を求めました。ダシヤラタ王は自分の望みのみならず、ヴァシシユタをはじめとする聖賢たちの反応も国民に開示しました。けれども、今は学僧バンデイトと政治家、すなわち、宗教の長たる者たちと統治者たちの間の結び付きは切れてしまっており、両者は互いの考えや感情はおかまいなしに我が道を行っています。疑いなく、これは何年も他国の支配下にあつた際、学僧バンデイトが時代遅れの文明の象徴と見なされていたことが、その一因となっているのです。しかし、異国による支配が終わった後も、両者間の結び付きを修復するための行動は何も取られていません。

聖典は信号機のようなもの

すぐに金銭的な利益を生じさせない学習への蔑視を助長する教育制度は、こうした偉大な人たちをおろそかにする大きな原因です。

私は道德の一般水準が低下したもう一つの原因について述べる必要はありません。万人が不真面目と

いう容易な道にすべり落ちているとき、それに反対して忠告をする人、その道の餌食となっている人たちに避けられない災難について警告する人は、無視され、笑われます。快樂と安っぽい気晴らしを探すことに耽ふけり、人々は過去の勧告と崇高な呼び声に耳を傾けようとしません。

私が咎とがめなければならぬもう一つの要因は、カースト間、宗教間の憎悪です。学僧バンデイトは大部分が一つのカースト(バラモン階級)に属しており、政治家は共同社会間の憎悪という角度から彼らを扱います。この憎悪は理性に基づいたものではなく、恐れと無知に根づいたものであり、ゆえに、望ましいものではありません。ヴェーダ、ウパニシャッド、シャーストラは、道路の信号機のようなものです。もし信号機が取り外されれば、交通は遅れと困難に陥り、事故が多発します。信号機を壊すわけにはいきません。私たちは人類のために信号機を修復しなければなりません。カースト(ジャーティ、生まれ)はグナ(性質)をもとに決められなければなりません。人は本人のカルマ(行動)をもとにどのカーストにふさわしいか否かを

判断され得ます。本人の性格と行動によつて立証されたものとして、もしジャーテイがグナとカルマという対の根拠をもとに決められなければならないとしたら、人は生涯、一時間あるいは一分毎に分類されざるを得ない、ということになつてしまふでしょう！地面が均一に見えるのは暗黒の中でのみであり、昼の明かりはその高さくぼと窪みを明らかにします。それと同じように、人々に平等について語らせるのはもっぱら無知によるものであり、知識は、健康と資質と態度と嗜好しこうの根本的な違いを明らかにします。

今日必要なのはバクテイ志向の教育

サイの意志は、統治者と学僧バンデイト、すなわち、世俗と靈性それぞれの領域における人々の安寧パーラカの守護者たちを、もう一度結束させることです。そのために、大臣と議員たちが学僧バンデイトと学者たちと並んで今、この壇上バンデイトにいるのです。両者が協力して働かないことには、新しい世界を創り上げつくる試みは進歩も成功も得られません。

カウラヴァ兄弟（マハーバーラタの悪役）は、勝利のためのあらゆる要因を備えていました。すなわち、富、兵力、味方、敵に対する異常なまでの憎悪、そして、カルナ（太陽神を父とする強力な戦士）を！しかし、すべては塵ちりと化しました。なぜなら、カウラヴァ兄弟は決してダルマのより高い価値に注意を払うことがなかつたからです。彼らが神の恩寵おんちようという、謙遜と平安の道を歩む者に用意されているものを授かることはありませんでした。クリシュナはカウラヴァ兄弟の御者ではありませんでした。カウラヴァ兄弟は、より劣るものに信仰を置きました。

国民を向上させ、祖国の子どもたちを教育するために統治者たちが計画を立てるとき、私は、この学僧バンデイトたちが今も守り、実践している、祖国の古代の智慧ちえを取り入れてほしいのです。それは船の竜骨をまっすぐに保つてくれるでしょう。私は、ウパニシャッドに含まれている知識がすべての人の手に渡るようにすることを望みます。

バクテイ（神への信愛）志向の教育は、今日世界の国々の多くで主流となつているブクテイ（享樂、現世

利益)志向の学校教育に取って代わらなければなりません。バクティはアーシャクティ、すなわち、あなたを靈性修行へと駆り立てる切なる想いであり、あなたにグニヤーナ(英知)を授けます。信仰心と不動心の両方を身につけなさい。そうすれば、あなたは勝利を得るでしょう。

災難は信仰心を高める

皆さんは、朝からずっと、この満員のパンダル(仮設の斎場)で、炎天下、十分なスペースも取れないまま、すし詰めになっていますが、それでも信仰心と不動心が揺らぐことはありませんでした。さらに大きな困難や惨事に遭っても、信仰心と不動心がそれに影響されないようにしなさい。そうしたものはあなたの上を通り過ぎていくことでしょう。強風は木の幹を堅いしつかりとしたものにする助けになります。災難はあなたの勇気をたぎらせ、あなたの信仰心を増大させます。天候が荒れ模様るときにこそ、靈性修行に励まなければなりません。好天のときには、注意して構

えていなくとも容赦されますが、悪天候のときにはあらゆる予防策が価値あるものとなります。この^{バンダイト}学僧たちは予防策を知っており、皆さんにそれらを話してくれるでしょう。その話を大切に心に留め、それに従って行動しなさい。それぞれ皆さんへの今日の私のメッセージです。

ブラシャーンティ ヴイドワン マハーサバーはカルナータカにも拡大することになっており、サワントが述べたように、マハーラーシュトラ州のみならず、インドのすべての州で、世界のすべての国で始まるに違いありません。なぜなら、聖賢たちの智慧は人類が受け継ぐべき遺産であるからです。

ホワイトフィールドのブリンダーヴァンにて

一九六四年四月十三日

Sathya Sai Speaks Vol.4 C15